

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 074	提案機関名 神奈川県山林種苗協同組合
要望問題名 ヒノキコンテナ苗の育苗について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成27年度から現在まで、コンテナ苗の育成をしてきましたが、無花粉スギ、無花粉ヒノキの挿木苗においては、根元直径が十分に規格以上となっています。少花粉スギや無花粉スギの実生苗については、幾分規格を下回るものが見受けられます。少花粉ヒノキ実生苗については、規格を下回るものが多い現状です。規格外ものは、廃棄するかも1年管理して出荷することとなり、灌水など管理の手間がバカになりません。 特に、少花粉ヒノキコンテナ実生苗の育成で、根元直径の肥大成長を図る育成方法について、培土関係や元肥関係とともに追肥の種類や時期や量の関係など、多様な育成方法の試験を行い、生産者の育苗生産に役立つ結果を開発していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 現地適応化事業（林業普及事業）			
対応の内容等 コンテナ苗の生産について、ヒノキについては根本径の伸長が遅く、現在当センターの研究員も参画して普及事業の現地適応化事業で播種床での施肥の実施や、秋床替えなど検討を進めているところです。1年を経過した原苗が期待したほど大きくないため、成立期待本数の調整等引き続き生産者指導を進めてまいります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			